

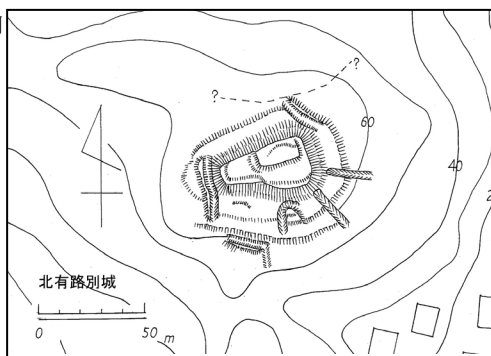
きたありじべつじょう  
No.127 北有路別城

福知山市大江町北有路小字五日市

- ・遺構名---曲輪、横堀、堅堀
- ・占地---山頂
- ・標高---70m
- ・比高---65m
- ・遺跡地区番号---大江町48

この城は、二箇村城の対岸にあたる五日市の城山にある。山頂に東西40m程の城域を確保し、南有路城と同様、曲輪の四周を削り落とし切岸を高くして防禦する手法をとっている。三方に横堀による遮断が見られ、南東の集落側には堅堀を敷設している。二箇村の渡し場を監視するのに好適な場所で、伝承では物見跡といわれている。

城主に関する記録や伝承はない。



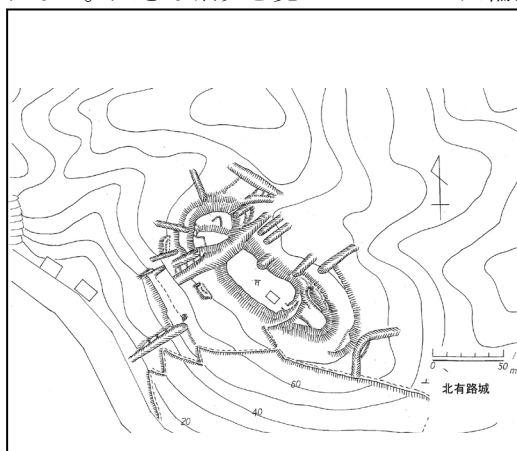
きたありじじょう  
No.128 北有路城

福知山市大江町北有路小字堂本他

- ・遺構---曲輪、堀切、堅堀、虎口
- ・占地---山頂
- ・標高---85m
- ・比高---75m
- ・遺跡地区番号---大江町43

この城は、大雲橋北詰の光明寺裏山の展望台付近に位置する。「大江町誌」によると城の南西から登り道があるので、こちらが本来の城道かもしれない。大きな堀切を境にして二つの曲輪群からなる。北側には二段の曲輪があり斜面には堅堀を敷設している。南側の曲輪は南北50m東西25m程の広さがある。一段下った南東の曲輪と虎口はかなり破壊されている。西側の斜面の中腹に幅5m長さ20mの曲輪があり、山麓の川湊の防禦を意識したものとする。

城主については、「嶽家文書」では矢(野)五郎左衛門とし、「竹原家文書」などでは山名与五郎(あるいは与九郎)という。山名与九郎と併記して倉橋弥三をあげる地誌もあり、「大江町誌」は、先祖が天正の頃に山名与九郎に滅ぼされて帰農したという倉橋家の系譜を紹介している。



山城日記 8

10月15日(日)、大江町の千原城・北有路別城と志高館城の3ヶ所に行きました。頭も体も使ったという感じの日でした。特に北有路別城はブッシュがすごくて、高橋さんがこれは切岸の城だと何度いわれても、「これが城？」と半信半疑で、歩き回っているうちに、図面がどんどんできていって、高橋さんの感もだんだんすまされていって、「その先に堅堀があるはず」といわれると堅堀が表れるという次第でした。横堀があったり、今までの舞鶴の城とはだいぶ趣がちがいます。行政区としては田辺藩だけど、文化的には福知山に近いのかな？千原城にしる、大江町の城は大きいようです。(こ)

平成18.10.18